

平成 30 年 6 月 8 日

豊岡市長
中貝宗治 殿

一般社団法人 日本建築学会近畿支部
支部長 三輪康



出石文化会館（ひぼこホール）の建物の保存活用に関する要望書

拝啓 時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

平素より、本会の活動につきましてご理解とご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。さて、貴市におかれましては、兵庫県豊岡市出石町水上 318 に位置いたします出石文化会館（ひぼこホール）の建物について、豊岡市民会館と合わせて機能を統合し、新しい施設に建て替える計画であること、新聞等の報道により聞き及んでおります。

当該建物は、1994（平成 6）年に建設されたもので、設計者は重村力（1946—／神戸大学名誉教授）率い、兵庫県下に拠点を持つ Team Zoo いるか設計集団です。別紙「見解」に記されたとおり、現代日本の建築としてその価値は高く、また地域の公共施設としてかけがえなきものであります。

こうした建物は、機能に応じた整備や構造体の補強によって長寿命化を図り活用していくことが、建築資源の有効活用の視点からも求められております。またその際、オリジナルの建物の価値を損ねないような細心の注意を払ったデザインや技術が必要になります。

貴市におかれましては、この貴重な建物の持つ高い文化的意義と歴史的価値について改めてご理解いただき、当該建物の歴史的な価値を保つための方途を積極的にご検討の上、推進されますよう、お願い申し上げます。

なお、本会はこの建物の保存活用に関して、学術的観点からのご相談をお受けいたします。

敬具

平成 30 年 6 月 8 日

出石文化会館（ひぼこホール）の建物についての見解

一般社団法人 日本建築学会近畿支部
近代建築部会主査 笠原一人

1) 建築の概要

兵庫県豊岡市出石町水上 318 に位置する出石文化会館（ひぼこホール）は、1994（平成 6）年に竣工した鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造、地上 5 階の規模からなる建物である。竣工当時の敷地面積は 18,133 m²、建築面積 2,094 m²、延床面積 3,265 m²であった。設計者は、当時神戸大学助教授を務め、Team Zoo いるか設計集団を率いた建築家重村力（しげむらつとむ／1946- 年）である。施工は浅沼・川嶋共同企業体である。

建物の敷地は、かつての出石城から 1.5km ほど北に離れた場所に位置する。461 席を備える大ホール、100 名を収容できる小ホール、120 名を収容できるギャラリーを中心に、楽屋や事務室を備えている。敷地内の建物周辺には、緑地と広場が広がり、屋外でのイベントなどにも利用できるようになっている。

現在の豊岡市出石町には、古代から朝鮮半島との交流がある但馬地域を象徴するように、渡来人の森羅の王子、天日槍（あめのひぼこ）が但馬地域の開発に力を尽くし、出石で没したという伝説が存在する。このことから、当該建物は「ひぼこホール」と名付けられた。

竣工後 25 年が経つが、小さな改修は見られるものの、外観から内部に至るまで、竣工当時の姿を非常によくとどめている。

2) 建築史学上の価値

2-1) デザイン的価値

当該建物は、多角形の平面に大きな丸い帽子のような屋根を載せた大ホール部分と、大きな三日月形の平面を持つエントランスホールおよびギャラリー部分の組み合わせからなる。その形態は、出石町のかつての城下町から離れた山や川の近くにあるため、自然の風景になじみながらシンボリックとなるものとして選択されている。建物の壁面には、土壁やタイルが用いられて、大地から生えてきたかのような風貌を見せている。1950 年代から 60 年代にかけてブームとなった市民会館などとは異なる、自由で独創的なデザインが大きな特徴である。

また大ホールについては、音響設計を設備技研と OTO 技術研究所が担当し、コンピュータ解析を用いて厳密に設計されている。そのため残響時間が 1.5 秒から 1.3 秒確保されており、室内楽などの演奏において優れた音響の環境が造られている。デザインの独自性だけでなく、性能の面でも優れたものとなっている。

我が国では、1990年代の10年間に約1,000件ものホール建築が建設されたとされる。その背景には、1980年代から90年代前半までの経済的な好況や、地方都市において文化施設を核としたまちづくりが実施されるようになったことなどが挙げられる。当該建物もその1つに位置づけられ、時代に特有の建築物であると言える。

なお、当該建物は、1996年に兵庫県さわやか街づくり賞を受賞し、1997年には日本建築学会賞作品選奨を受賞している。

2-2) 重村力および Team Zoo いるか設計集団の作品としての価値

当該建物は、神戸大学教授でもあった建築家重村力が率いる Team Zoo いるか設計集団によって設計されたものである。

重村は1946年横浜市に生まれ、早稲田大学に入学する。学生時代に建築家で早稲田大学教授であった吉阪隆正に師事し、1971年には象設計集団設立に参加している。1978年から神戸大学の教員となり、また象設計集団のメンバーであった有村桂子とともに Team Zoo 象設計集団神戸アトリエを設立した。1981年に Team Zoo いるか設計集団に改称し現在に至る。

建築設計の実績としては、豊岡市立弘道小学校（1991年）、淡路市立岩屋中学校（1992年）、城崎温泉一の湯（1998年）、朝来市埋蔵文化財センター（2006年）、ハーバーランド煉瓦倉庫（1900年頃の建物の改修）、玄武洞ミュージアム（2018年）など、兵庫県下や但馬地域を中心に多数の良質な公共性の高い建築作品を設計している。重村は日本都市計画学会石川賞を受賞し日本建築学会副会長を務めた経験も持つなど、建築家として、また研究者として高い評価を受けている。

重村やいるか設計集団の建築作品は、いずれも木造であったり、鉄筋コンクリート造であってもインテリアに木製の材料を用いたり、また建物の配置が街や集落のような豊かな空間となっていたり、建物が建っている地域の特性を表現したものとなっているのが特徴である。出石文化会館（ひぼこホール）についても、自由なデザインではあるが、他の建築作品と同様に、地域に根差した表現が選ばれている。設計者の特徴がよく表れた建築作品だと言える。

2-3) 地域遺産としての価値

前述のように、当該建物は出石町の歴史性や場所性を考慮した象徴的な建物としてデザインされている。建設から未だ25年しか経過しておらず、十分な歴史的価値を有しているわけではないが、ホール建設ブームという時代の特徴を体現し、また設計者の特徴をよく備えた優れた建築物として、高い文化的価値を有している。

また設計者の Team Zoo いるか設計集団は、兵庫県下に拠点を置く建築設計事務所であり、但馬地域に多数の公共建築を設計している。つまり当該建物は、地域ゆかりの建築家によって設計された複数の建築作品群の1つとして、地域の遺産として位置付けることができる。

当該建物の閉館が報じられた後に実施された、市民によるホール存続を願う署名は 1 万 3000 人を上回ったと報道されている。このことから、市民の日常生活にとって必要な施設として出石町の地域に根付いた建物だと言える。

3) 期待される活用

前述のように、当該建物はそのデザインに優れ、また時代性や場所性を反映し、さらに地元の建築家によって設計された文化的歴史的価値の高い建物である。このような優れた建物が損なわれ、あるいは失われるようなことがあっては、地域や我国の建築文化にとっても大きな損失である。

当該建物のような鉄骨鉄筋コンクリート造の建物は、修復や改修、補強などを行いながら活用し使い続けるのが、近年の世界的な潮流となっている。世界遺産の登録などを行うユネスコ (UNESCO) の諮問機関であるイコモス (ICOMOS) は、2011 年 6 月に「マドリッド・ドキュメント」を採択したが、その中で、鉄筋コンクリート造の建築を中心とした 20 世紀の歴史的・文化財的建築について、「リビング・ヘリテージ」という概念を用いて、積極的に活用し使い続けていくことによる建物の保存を提言している。建物の保存活用は、世界的な潮流になりつつある。

地方自治体の市民会館などホール建築についても、近年、特に 1950 年代から 60 年代にかけて建設された建物に耐震や免震による改修を行い、保存活用する事例が増えている。例えば米子市公会堂 (1958 年) は、文化勲章を受章した建築家村野藤吾の設計によるものだが、近年耐震補強工事が行われ、オリジナルの建物の姿を保ちながら保存活用され、改修前よりも賑わっている。また神奈川県立音楽堂 (1954 年) は、日本の近代建築を主導した建築家前川國男の設計により 1954 年に竣工したものであるが、2008 年度と 2009 年度に耐震改修を行い、2018 年度にも改修工事が行われている。このように各地で、戦後の優れたホール建築についての保存活用の事例が増えている。

その改修に際しては、オリジナルの建物の歴史的、文化財的価値を可能な限り損ねない工夫やデザインが必要となる。出石文化会館 (ひぼこホール) は、現在も竣工当時の機能を大きく損なうことなく使い続けられ、その文化的価値を維持している。今後も、建物が持つ文化的価値を保存・維持しながら、機能性や耐震性を高め、活用されることが望ましい。よって多角的なご検討と配慮により、当該建物の保存と活用が計られるよう切望するものである。

ひぼこホール

